

# く ら ぶ と

## 県育協だより

発行 鳥取県家庭教育協会  
鳥取県家庭教育協会  
第18号  
平成25年10月

### 新しい制度の前に

鳥取県子ども家庭育み協会 会長 大橋 和久



平成27年度からの保育制度への具体的な検討が、「子ども・子育て会議」で急ピッチに進められています。国は、保育の量的拡大・確保と質的改善を図るとして、まず、消費税5パーセントから8パーセントに上げ、消費税での増収分から当面7,000億円を充て、まず量的確保を目ざしています。

一方、保育の質を担保するための財源措置は消費税を10%に上げた後に手当てするとしています。小規模保育・家庭的保育・居宅訪問型保育など規制緩和とも言うべき制度により待機児童解消に向けた取り組みを優先し、保育の量を確保しようとしています。

しかし現状を見れば受入の体制が整っても、保育そのものを支える保育士の確保が本当にできるのかはなほ疑問です。現在の保育士不足は、非正規職員の常態化や給与の低さが要因の一つですが、保育士に求められる仕事の内容が、障り児保育、延長保育、一時的保育、地域子育て支援事業など多種多様な保育形態、国が11時間保育などハード面と小学校との連続性を意識した教育面での強化や記録の圧倒的な量の多さなどソフ

ト面でも多くを求められていることも大きな要因であると思います。さらには、保育士の待遇、社会的地位の低さや、若い人たちが保育現場に魅力を感じなくなり、保育士を目指すとする人たちが減ってきています。また保育士養成校を卒業しても他の福祉分野や他業種に就くことも稀ではない実態もあります。

現在の保育所を取り巻く環境は大きく変遷を遂げようとしています。現場を検証すればするほど保育の質の劣化への方向性が視えてきてしまいます。

新しい制度や仕組みの是非はともかく保育現場にかかわる一人として、まず我々自身の足元から見直すべき点があるかもしれません。我々保育関係者はことある度に保育の質、保育の専門性を言い続けてきました。

一般的に専門性とは国家資格的に言えば、例えば医師、看護師や弁護士、税理士、運転士、気象予報士、栄養士など個人としての知識や技能によって求められる課題を解決し、また解決に至るまでのプロセスをも必要とされる能力を有することや言うことができます。

しかし、保育士は保育集団として組織的に子どもたちの全人的な育ちを保障するため、職務内容は決して狭く収まらず、保育室内外

の環境整備、保健医療の基礎的知識、食、排泄、衛生管理を始めとし、保護者との対応、家族支援、発達支援、教育内容の実践などにかかわり、とても幅広く、しかも複雑多岐にわたっています。

つまり、多くの他業種の専門性は、期待される結果や成果が客観的に表出され、場合によっては数字的に示されることもあります。

しかし保育は先述したような発達特性を考慮しながら、その時々や状況に応じて様々なかかわりや支援の行為そのものが重要であることは間違いありません。言い換えれば、他の多くの業種の専門性は「アウトプットの質」に対し、保育の専門性は「プロセスの質」とも言えます。

専門性だからといって、子どもの行動の主観的な要素をまったく考慮せず、排除してしまうことは正しいとはいえません。つまり、子どもの客観的な要素をも考慮し、保育士ひとりの偏重的な理解ではなく、子どもの精神的発達と身体的発達を客観的に理解する必要があります。

そのためには年齢ごと発達過程を理解し、それぞれに繋属性（つながり）と一貫性をもった評価と視点が整備される必要があります。現在の保育所保育指針では実態に即したより具体的なそれらは示されておらず、そのようなシステムが整備されていない保育環境では困難を極め、無理なのかも知れません。

このように保育の専門性を考えると、まず保育士を養成する教育機関において有機的な連携を念頭に置いた系統的なカリキュラムへの再編とその機能を担う各学問分野が相互に有機的に関連しあっていることを達成するシステムが必要ではないでしょうか。また養成校の

多くが2年制を占めています。3年制・4年生の養成期間の延長があつてよいと思います。

さらには現在、鳥取県において一部先駆的に取り組まれている保育士ですが、最前線に立っている保育士の専門的知識と技術や対人関係をも含めた「人間性、人間力」を磨き、再生産するための研修制度、すなわち「リカレント教育」の充実があつてよいと思います。

本来日本では、「子育て」は家庭が担ってきました。それが「家庭」という私的空間から「保育園」という公的空間へと委ねられるようになり、今日、保育士（園）の果たすべき社会的役割、責任はより大きくなっています。平成13年に、保育士の制度的位置づけが「任用資格」から「国家資格」へと変わり、専門職としての保育士の社会的地位が確立されたのも、そういった実情が反映されておられると思います。しかし近年の核家族化や都市化の代償として「子を育てる」という家族本来の機能や地域の教育力が低下し、育児不安や児童虐待など子どもたちが育つ環境が大きく変化しています。

そういったことから今や保育園（士）が果たすべき役割も従来以上に公的資源としてその専門性を提供することが求められているといっても過言ではありません。

特に子どもは、様々な環境の中で生き延びることを学ぶ存在です。悲しむべきことに、戦火の中で育つ子どもたちは、戦場の中で育つための術を学び、ごみの山の中に生きる子どもたちは、その中で生活するための術を学んでいるのです。このように考えると保育の環境は、保育者による日替わりメニューで左右されるべきことではありませんし、もちろん保育者が提供しなければ遊べないということでは困るわけです。常に遊べる状態が存在し、昨日の続きを今日もすることができて、明日も見通

### 「遊びきる子ども」を

#### 保育として考える

赤碕保育園 園長 福田 泰 雅

#### 【生物は環境から学ぶ】

鳥取県教育委員会の幼児教育振興プログラムのテーマは「遊びきる子ども」となっています。乳幼児期の子どもの発達は、生活の中の遊びにあるということですね。これはどういうことでしょうか。面白いことに、子どもは、いや大人も含めて生き物は、すべて自分が身を置いている環境の中で生き延びられるよう、遊びを通じて環境から学んでいます。これをアフォーダンスといいます。アフォーダンスとは、海は私に泳ぐことをアフォーダンスし、山は私に登ることをアフォーダンスしているというように環境と無関係で生きていくのではないということを表しているのです。つまり、海、山に限らず、身近な生活環境が生物に対して、その環境の中で生きていく能力を身につけるよう働きかけていて、遊びを通して環境との相互関係の中で人は発達するようになっているのです。

#### 【子どもから保育が始まる】

さて、それでは保育の場として、どのような環境が子どもたちにとってふさわしいのでしょうか。第1に保育者として「このような遊びを通じて発達してほしい」という願いを込めた環境であるべきでしょう。第2に子どもはそれらの環境の中で「どのように遊ぼうとしているのか」という視点から保育が構成され、それに伴った環境が考えられなければいけません。様々な環境において、子どもは大人の意に沿うか否かに関わらず、必ず環境に働きかけ、何かを学ぼうとしています。だから「子どもがやっていること、やろうとしていることに無意味なものはない」ので、あらかじめ保育者の願いが込められ、準備された保育環境の中で、どのように遊ぼうとしているのかを丹念に観察し、省察や子どもとの対話から、遊びきる保育が始まるのです。

こうしてみると保育とは、個々の子どもから始まり、活動という遊びを子どもとともに創造する営みだといえるでしょう。まず子どもが何に興味や関心を持ち、その中で何を学ぼうとしているのかを考えないならば、保育者の意に沿うか、沿わないかで能力を判断される子どもは不幸です。そのよう



にして「気になる子」を生み出し  
ていないでしょうか。大いに考え  
てみる必要があります。

### 【新しい学力観の基礎としての保育】

従来の教育の学力観は、知識や  
技術の習得でした。しかし現在の  
学力観は、課題の発見、問題の解  
決、学びの意欲、思考する力、判  
断する力、学び方の習得、表現す  
る力など多岐にわたっています。

これらは判断力や表現力の不足、  
学習意欲の低下、学習の習慣化の  
不足、物や人に関わる力の不足な  
どが課題となってきたためです。

また、本来学びは将来のために  
というよりも、学ぶこと自体が面  
白いのであり、遊んだ結果様々な  
力が備わっているような構造になっ  
ています。そのように考えると、  
問題となっている項目が課題とし  
て取り上げられる原因は、遊びの  
不足だということではないでしょ  
うか。

これらの基礎は、すべて赤ちゃ  
んの生活の在り方に関係していま  
す。赤ちゃんからの成長の積み上  
げ以外に、これらの学力観を充足  
するための基礎を築くことは不可  
能です。それにもかかわらず、従  
来の学力観である知識や技術の習  
得を目的とした学校側の論理に加  
担するような保育がまかり通って  
いるのはなぜでしょう。おそらく  
物事を考える必要がなく楽だから  
なのでしょう。しかし、思考停止  
の態度ほど保育を貶めるものはあ  
りません。

遊びを子どもたちとともに深め・  
広げて、子どもも保育者も最終的  
に「あー、面白かった。」と言っ  
て次の遊びへ移っていく保育を  
創造するのは、まさに芸術の領域  
であり、決して思考停止からは生  
まれることはありません。

また、個別の遊びは、気になる  
子と判断されてからするものでも  
ありません。すべての子どもが環  
境の中でどのように遊ぼうとして  
いるのかを見ていなければいけま  
せん。「そんなことは不可能だ」  
というかも知れません。だからこ  
そ、どの子にも適度な発達にふさ  
わしい環境を整備するのです。そ  
して3歳以上児ともなれば、個別  
活動から小グループ活動へと向か  
うことも十分可能であり、そのよ  
うに活動が実践されるべきなので  
す。

それにもかかわらず、子どもを  
観察して「問題有り」とされた時  
点から個別の保育が始まるという  
のは、一体どのような意味を持っ  
ているのでしょうか。それはおそら  
く、こだわりがあるために集団に  
なじまないという理由ではないで  
しょうか。そうなるなら「保育とは、  
集団の中で生活できるようにする  
こと」という単純な意味になっ  
てしまいます。

集団の中で生活できるというこ  
とは、遊びきった末にいつのまに  
か身につけているべきことです。  
もしも集団になじむことを保育の  
目的とするならば、逆に集団の中  
で波風を立てないために、表現し  
ないことを学んでしまうでしょう。  
赤ちゃんは誰でも外界に積極的  
に働きかけています。私たちは、  
その赤ちゃんの姿から学び、赤ちゃ  
んの行動の意味を考え、遊びを創  
造し、振り返る必要があります。  
そしてどの年齢でもそのようにし  
て子どもから保育を始め、保育を  
構成するのですが、その中で子ど  
もは子どもながらに、保育者は保  
育者ながらに、共に学ぶ者として  
存在することが「遊びきる」ため  
に重要です。つまり、遊びきる保  
育の中で育つというのは、「物的  
な環境や他者との協同という環境

の中で、しっかり感じ、じっくり  
考え、たっぷり表現する」そんな  
生活を繰り返し、自ら生きる力の  
基礎を学ぶということではないで  
しょうか。

## 第56回全国私立保育園 研究会参加報告

鳥取県子ども家庭育み協会 副会長 村島 満

6月5日～7日にかけて宮崎市  
シーガイアコンベンションセンター  
を会場に第56回私立保育園研究大  
会が開催されました。鳥取県は平  
成27年に開催が予定されている第  
58回全国大会の開催地となること  
が決定しているため、本会からは、  
大会実行委員長以下4名の実行委  
員と事務局1名が視察のために派  
遣されました。



6月5日～7日にかけて宮崎市  
シーガイアコンベンションセンター  
を会場に第56回私立保育園研究大  
会が開催されました。鳥取県は平  
成27年に開催が予定されている第  
58回全国大会の開催地となること  
が決定しているため、本会からは、  
大会実行委員長以下4名の実行委  
員と事務局1名が視察のために派  
遣されました。

宮崎大会の運営の特徴は、なん  
ととっても規模の大きさにありま  
す。今回は2,000名以上の参  
加者を得ての開催となりましたが、  
メガリゾートが会場というだけあっ  
て、全体会はもちろん、2日目の  
分科会に至るまで、全て1つの会  
場で賄えるという施設のキャパシ  
ティの大きさに驚きを禁じ得ま  
せんでした。懇親会に至っては、  
000名を超える参加者が一堂に  
会し、開会の辞を合図に広大な会  
場の隅々まで一斉に料理がサーブ

スタッフも充実しきった表情で大  
会の終わりを迎えている姿が印象  
に残りました。  
宮崎でも岩手でも、それぞれの  
地域の保育とは？そこで大切にさ  
れてきたものは何か？という問い  
に、保育者一人ひとりが真摯に向  
き合う中で大会が造りあげられて  
いったように思います。研修とは  
参加者だけでなく、運営に携わる  
側も多くのものを得る場であるこ  
とを改めて感じました。

## 各研修会報告 (5月～7月)

### モンスターパーアレント 論を超えて

施設長研修会

わかば台保育園 田中 妙子

平成25年5月22日、米子コンベ  
ンションセンターに於いて、施設  
長研修会が開催されました。子ど  
もの成長支援と共に私たち保育所  
職員の役割である保護者支援につ  
いて、「モンスターパーアレント論  
を超えて」～保護者と向き合う気  
持ちと職員の共同性」と題し、大  
阪大学 人間科学研究科 教授小  
野田正利氏にご講演いただきました。  
た。

唐草模様のジャケット、メッセー  
ジ入りのTシャツ、軽妙な語り口  
調に引き込まれ、笑いの中にどん  
どんと投げかけられる現状と課題  
に心と頭を思い切り動かされ現場  
の厳しさがひしひしと伝わってき  
ました。

教師の理屈と保護者の思いにズ  
レがあり、そのことからのトラブ  
ルが増加していること、それが将  
来の社会問題、社会病理になるこ  
とが語られました。教師は保護者

鳥取での全国大会まで2年を切  
りました。現在、大会実行委員長  
の福田先生(赤碕保育園長)を中  
心に、開催の準備が進められてい  
るところです。私立保育園に係る  
大会ではありますが、育み協会の  
会員の皆様の力と想いを結集して、  
全国に向かって鳥取の保育を発信  
できるように大会になればと願っ  
ています。皆様のご協力を宜しく  
お願いいたします。

からの要望にビクついていないで、  
申し立て(怒り)の着火点と爆発  
地点は違う場合があることを理解  
し、なぜなのかその理由、本音を  
読み取ることが必要であること、  
そのためのテクニクを身に付け  
ておくことが、より保護者理解に  
繋がることもお話しいただきました。  
爆発している保護者をモンス  
ターと捉えず、あくまでも人間で  
あるという考えのもと、保護者と  
関わる立場の私たちへどう関わる  
べきか御示唆を頂きました。また、  
申し立てを受けている職員を孤立  
させないことの重要性を、一人で  
保護者と向き合うことに取り組ん



で、悩み、苦しみ、自殺という最悪の結果となってしまったことを語ることで伝えてくださいました。自分の思い、悩み、苦しみを吐き出す場所があることが最悪な結果から踏みとどまることがなること、その環境を作るのは長である立場のものだということに強く伝えられました。「教育は「愛」と「ロマン」そして「理性」である」保護者対応力は必須アイテムではない。経験から身につけてくる。との言葉に施設長である私たちの立場と役割を痛切に感じた研修会となりました。

### 第1回保育士研修会

みなと保育園 渡部るい子

平成25年度鳥取県保育所(園)第1回保育研修会が6月8日、倉吉未来中心にて開催されました。講師に、岩城敏之先生をお迎えして「もっと遊び上手な保育者になろう」というテーマでお話ししていただきました。

遊びは何か?から始まり、レオニの内容をユーモラスな語り口調で解説していただき「遊ぶ」ということは、人が人らしく、豊かに生きること、人生を楽しむこと、一人一人に合った遊び文化を見つけて届けてあげることが大事なことでと言われました。今の子ども達は語彙数が低下して、豊かな生活体験がテレビやゲームに奪われ、実体験がなくなっているのです。次世代の人材育成は保育園にあり、発達に合わせた遊びを共感できる友達や、信頼できる先生と一緒に経験していくことがとても大切になってきます。かしこい子どもに育てるには、基本「よく見る」「よく聞く」「よ

### 第1回障がい児保育研修会に参加して

高城保育園 泉 孝子

平成25年6月15日(土)鳥取市福祉人材研修センター、平成25年6月23日(日)米子市ふれあいの里にて、鳥取大学医学部脳神経小児科臨床心理士の井上菜穂先生に、「障がいをもつ子どもと保育士との関係と保育士の援助」について講演をしていただきました。近年、発達障がい診断を受ける幼児・児童・生徒が増えている現状です。ストラテジシートを使った応用行動分析の仕方、具体的にわかりやすく話していただきました。

私たちは子どもの行動、特に良くない行動に目を向けがちですが、どんな行動にも事前と事後があり、行動・きっかけ・結果を整理することで子どもの立場に立った行動へつながっていくという仕組みがよくわかりました。そして、その行動を理解しながら子どもたちのいい行動が増えるような私たちの援助の仕方や環境構成について考えました。気になるものや苦手なものを取り除くこと、事前に予定や支持やルールなどを視覚的に示すこと、本人の好きなことや活動をとりいれること、その子が喜ぶ褒め言葉でたくさん褒めること、適切な行動を始めやすいよう環境構成の工夫、などについて学びました。

私たち保育士が、一人ひとりの子どもをよく観察し、関わり方や環境を整えることで、子どもが落ち着けたり、学びやすくなり、褒められることが増え、自己肯定感へつながっていくと感じます。日々の保育の中で、子どもたちの気になる行動を、どう関われば



いいのか考えてしまうことはよくあると思います。一人では決まったアイデアしか思いつきませんが、職員皆で考えれば、アイデアが増え、取り組みそうなことがたくさん出てきそうです。話し合うことで、職員の子どもに対する共通理解や職員の質の向上につながっていくと思います。この研修で学んだストラテジシートを使いながら行動分析を行うことが日常的なこととなり、一人ひとりの特性に合わせた援助や環境構成を、今以上に考えて行きたいと感じました。



### 保育士支援は笑顔から

主任保育士研修会

赤崎保育園 中井 靖乃

平成25年6月29日(土)主任保育士研修会が倉吉未来中心に於いて開催されました。今回は講師にKANSAIこと

も研究所所長で、日本笑い学会理事の原坂一郎氏をお迎えして、笑い笑顔いっばいの楽しい時間の中で保護者支援をテーマに講演していただきました。

保育士は「コミュニケーション能力が大切」。保育士と子ども、保育士と保護者、保育士と同僚。この3つの関係が大切で、3つともうまくいく方法は同じ。キーワードは「笑顔、笑い」。本当の意味での保護者支援とは、「子どもってかわいい」「子育てっ

てたのしい」という気持ちを抱かせ、「我が家に子どもがいてよかった」を感じる事ができるようお手伝いすること。そして、このきっかけを作るのが保育園で、保護者を笑顔にすることが子育て支援に繋がっていると話すことです。

保護者に笑顔が出ると余裕が生まれ感謝の気持ちもわき、保育園に支えてもらっていると思えば、この園に来てよかったと感じるとのことでした。

具体的な支援として、①話を聞く、②ちょっとした相談に乗る、③園での子どもの様子を知らせる、④保護者一人ひとりと仲良くなるなど、経験談を交えながら話されました。

保護者理解の3つの基本としては、①保護者はみんなわが子が一番、②心の時計はいつも自分が12時、自己中心的、③先生と保護者の信頼関係の方程式は「100-1=0」100個よいところがあっても一つ信頼を失うと信頼度は0(ゼロ)になるとのことでした。

また、保護者とのいい関係を創るための5つの魔法テクニックとして、①一対一のいい関係を保護者一人一人と作っていく、②こちらから先に話しかける、③子どもの様子を伝える、④子どもに好かれる保育をする、⑤笑顔で話す。

保護者とうまくいくポイントは保育と同じで、認める、否定をしない、受け入れる。大人も子どもも同じで、認めない保育士は保護者からも受け入れられないということでした。

自分の保育を振り返ると、忙しい毎日過ごしているうちに顔が険しくなっている事があります。朝夕の忙しい時間でも、こちらから笑顔で声をかけ、日々の子どもの様子を伝えることが保護者支援につながっていることを改めて感

じました。保育士が笑顔で向き合い、保護者や子どもの思い、行動を受け入れ認めることで、保護者を笑顔にする事ができ、その事が子育て支援につながっていると話すことを感じた講演でした。



### 第1回食育研修会

みどり保育園 熊本 圭子

平成25年度鳥取県保育所(園)第1回食育研修会が、7月6日倉吉未来中心にて開催されました。

講師に阪南医療生協診療所所長眞鍋穰氏をむかえ、テーマ「子どもの食物アレルギーへの対応」そのうなだ食物アレルギー 保育所におけるアレルギー対応ガイドラインにふれて」の講演をいただきました。

初めに資料から抜き取り、厚生労働省から発行されたアレルギー対応のガイドラインの内容にふれながら食物アレルギーへの正確な理解とガイドライン発表におきける問題点について実際の事例をもとにお話しを聞きました。眞鍋先生は上野芝陽だまり保育園理事長であり小児科のドクターでもあり、専門的な事、又は、日常に起こりうる事項も含めての内容で大変勉強になりました。

保育所保育指針でも乳幼児期の食べることの大切さ・命への関心・私達保育園側の健康と安全に関する共通認識の向上がうたがってあります。

アレルギーのなかでも食物アレルギーの子どもの割合は、実に様々な原因物質があります。三大アレルギーは①鶏卵②牛乳③小麦で、その比率は全体の50%、20%、7%となっていて最近ではゴマ・ピーナツ・人参・じゃがいもなどがあり、これは輸入によるポストハーベスト等が原因のひとつにあるといわれています。乳幼児は消化呼吸能力が未発達で脂肪やたんぱく質が消化されにくくアレルギーの原因物質（抗原）になっていきます。0歳からの離乳食ですぐに食べるこの大切さや食の安全性を真剣に考えていかなければならないと思っています。私の勤務する園でも常に幾人かのアレルギー児がいますが保護者からの医師の指示書をもとに除去を行っています。給食時に食器を他の子どもと違うものにして名前を書いたりして、誰が見ても一目でわかるように提供しています。

食物アレルギーへの対抗ガイドラインで保育園では完全除去か完全解除かの2者選択の対応となっています。ポイントとして①医師の指示②安全面を重視して簡単・単純な方法から実施する③スタッフ全員で取り組み、スタッフ間・保護者・医療機関との連携を密にする。があげられますが保護者の理解も重要になっていきます。

保育園での除去と解除のレベルとして

- 厳格に解除して改善してから徐々に解除
- 除去は基本的に2歳までを目安に行う
- 解除の見直しを6か月ごとに

見直す（1歳未満なら3か月）  
○除去したら必ず他の食品を補い栄養のバランスをとる  
○母乳の場合は母親も原因食物を除去

しかし、その一方で保護者が医師の判断抜きで原因を自己判断してその実施を園に要求したり、園側が解除を早く進めようとして焦る、子どもの実際の状況と園・保護者の判断がずれているという問題点も生じています。

講演の中で給食の基本的な考え方も話されました。保育園で最も優先されるのは安全であり保育園での食物アレルギー児への対応は一人ひとりの子どもと集団、双方への対応や体制を保護者の理解を得たうえで考える必要性があり、それが生活の基本である子どもの生命の保持と健康につながっています。命を預かっている者として、改めて保護者との連携・園全体の共通理解の重要性を考えさせられた研修でした。



愛着障がいと発達障がい

第1回乳児保育研修会

松保保育園 菅原美和子

平成25年7月13日（土）、14日

（日）に第1回乳児保育研修会が米子市ふれあいの里、鳥取県立福祉人材センターに於いて開催されました。講師に鳥取大学大学支援機構教員養成センター准教授 小林勝年氏をお迎えして「愛着障がいと発達障がい」についての講演をしていただきました。

研修の内容は、はじめに準備していただいていた資料とは別に発達障がいと愛着障がいの違いを今の子どもの親の姿と照らし合わせ、私達周りの大人がどんな関わりをしていったらよいか考えていくお話でした。

発達障がいは脳に原因があり、学習面や行動面でルールが守れなかったり会話が出来なかったりするなどの特徴がみられるが障がいだからといって差別されるのではなく、社会全体で生育環境を考えながら暮らしていけるようにすることが大切である。また、愛着障がいがおきる背景として、人間は人と人との間で心が育っていくが今、社会全体が子どもを物のようにつかっている現状があるのではないかと話されました。最近の気になる親の傾向として、キレる、怒鳴る、叩く、無関心、子どもものいいなり、自分のことを優先する等の姿がある中で気になる子どもの姿は生活習慣が身に付いていない、集団遊びができない、すぐにカンシャクをおこす、人の話が聞けない等の姿がある。愛着とは目交い（まなかい）と同じで目をみて子どもと話をすると話す人の眼差しに子どもは気づき、気づいた子どもの眼差しを感じて大人が見直す。見直された子どもは、話の内容と相手に注目する。愛着とはコミュニケーションの基本的関係の成立と同じことだと教えていただきました。そして、目に見えないことを大切にできる関係性を

を保護者に伝えて欲しいと言われました。

また、後半は短時間ではありましたが資料をもとにしたお話で、発達障がいの特徴や愛着障がいにも様々なタイプがあること、不安定愛着児への対応を学びました。子育ては「愛情」から始まる営みである。そして愛情は「行為」で試される。ということも言われました。愛着障がいと発達障がいについてお話を聞くことで子どもとの関係や関わり方をもう一度考えてみる事ができました。



三徳山研修にて「座禅で喝！」

初任・初級保育士研修会①

育成保育園 柏木 克仁

今年も育み協会青年部会主催の初任・初級保育士研修会が7月24日に三徳山皆成院で開催されました。



午前講義は、住職の清水成眞氏による座禅・法話・写経を行いました。

冷房のない所で、朝から30度を超えていましたが座禅を行うと、蟬の声や川の流れる音、部屋に入ってくる風を感じ、とても涼しくなりました。座禅とは呼吸法と言われ物事に動じない心を作り冷静に対処できる心を作るために座禅があるそうです。座禅ができていない方には、恒例の喝の棒で叩かれますが、一回ではなくパンパンと6回叩きます。喝を入られた後は、スウーと体が軽くなり改めて心を作る事に集中できるようになりました（叩かれていないので感想を聞きました）

法話では、住職からお坊さんの仕事は、人の考え方を教える事とされました。世の中は人々がたずさわりながら成り立ち、そこに自分ができる事を少しでも良いので見つけ、たずさわることによって、他の方が助かり自分が何か人のためにする事で、自分自身が救われ心が清らかなる事が大切とされ、今の世の中は、小さい事の突き合いで自分たちの生活を壊している。どうかもう一度世の中の事を考え、お互いをかばい合いうずり合う気持ちを持ち生きてもらいたい。子育ても同様に、周りの大人が手を貸し合いながら育

てる事が大切ではないか。との話でした。

私も周りの人々とうまく関わり合っていくか考え、常に感謝の気持ち忘れず、子育てに関しても人任せでなく、私たち大人が子どもをのびのびと育てる事ができる環境づくりが大切だと感じました。



午後の講義は、有限会社キッズいわきの岩城敏之氏に保育の見方、環境の見方の話をさせていただきました。大人は子どもの欲しがる物、テレビゲームなどを与えて遊ばせている。保育園にいる時くらいは、自然の物やアナログゲームなどで友だちと共感できるような遊びをしてもらいたい。保育中は子どもにプレッシャーを掛けてしまいがちになり、常に正解を求め「これは良い事、これは悪い事」と大人が線を引きついでしまう事が良いのか？間違っても良いものではないか。子どもにする事には何か意味があり、失敗もする事で子どもが自ら考え自主性を伸ばしていける環境を作る事が大切。子育ては文化。と言われました。

今日日本が発展し豊であるのも、私たちの先祖が優秀な人材（子ども）を育ててくれたからで、昔は子どもが自ら学び、わからない事も周りの大人が教え教わる生活があり、家族学校近所の大人が一緒

になって子育てをしている文化があり、その環境を絶やさないと努力していく必要があると思いません。昔の子育て環境は、子ども自ら考え良い事悪い事を自然と身につけている様に思えますが、今は些細な事でも問題にして、「これはダメ」と一方的に決めつけ、子どもが豊かに育つ環境を大人が狭めている様に思えます。日本の未来はどうなるのでしょうか。



皆さん初めまして、今回から全4回の予定で「おもちゃ遊び」について連載をさせて頂くことになりました高橋です。精一杯、綴りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

まずは自己紹介です。私は米子市にて「木や」という木のおもちゃ専門店を営んでいます。

この「木や」は平成十年に開業して以来、子どもの成長や発達に合った遊び道具としての「おもちゃ」を取り扱う専門店として営業してきました。振り返ると早十数年、今日まで続けることができましたのは、皆様方のお陰と深く感謝し

ています。

さて、私の活動に「移動おもちゃ講座」なるものがあります。

これはいろいろな依頼内容によりスタイルは異なるものの、基本的にはおもちゃ体験講座です。

実際に環境を設定し、おもちゃで遊んで楽しんでもらう講座なのです。今回はこの「移動おもちゃ講座」の取り組みから綴りたいと思います。

ここ数年で依頼が増えていますが、「アナログゲーム体験講座」です。

このアナログゲームにはたくさんの種類がありますが、一つだけ共通点があります。

それは一人だけでは遊べないということです。この遊びは誰かしらとのかかわりの遊びなのです。

すなわちこの遊びは子どもたちがコミュニケーション力を以て楽しむ遊びなのです。

その遊びの導入において、大人(保育者)のかかわりはとても大切で、このかかわりなくしては、なかなか遊びが成立しにくいことを肌で感じています。

例えば、4人の年長児さん(Aさん、Bさん、Cさん、Dさん)がこの遊びを始めたときです。

ゲームも中盤にさしかかった頃、Aさんがサイコロを振ると、出た目は「1」。一番小さな目が出てしまいました。Aさんはその目が気に入らず、なんともう一回サイコロを振ったのです。出た目は一番大きな数である「6」です。Aさんが自分の駒を六マス進めている途中、Bさんが言いました。

「そんなのいけんわ! ルール違反だわ!」そこでAさんとBさんの言い合いが始まりました。そのうちにAさんは席を立ち、先生に「Bさんが怒っていいけんわ」と言いつけに行っていました。C

さんは気づきました。自分の駒やみんなの駒が元あったマスからずれていることを。Aさんが席を立った時に、足が机にあたり、盤上の駒が動いたのでしょうか。Cさんはみんなの駒を何とか元通りにしようとしていますが、みんながそれぞれ「そこじゃなかった!」「ちがう!」と言われてしまいました。

Cさんは何だか悲しくなってきました。Dさんは突然席を立ち「やめた。」の声を残してどこかへ行ってしまいました。やがてその場に誰もいなくなり、ゲーム盤だけが悲しく残されていました。

これはいろいろなトラブル要素を織り交ぜた創作のお話ではありますが、細なことをきつかけとして遊びが最後まで続かないことが多いのです。

しかし、その場に大人(保育者)がいて、しっかりとしたかかわりがあれば、この遊びを初めてするという子どもたちでも、十分遊びを楽しむことができます。

そして、そのかかわりがある程度の期間重ねると、やがて子どもたちだけで当然のように遊びを楽しむことができるようになります。

その姿は、本当にうれしいものです。

私の場合、子どもたちへの導入時、まず遊びの前提を示します。

この前提を「アナログゲームを楽しむ5つのコツ」として子どもたちにお話をします。

①お話をきちんと聞きましょう。

②ルールを守って遊みましょう。

③人を思いやり、マナーを守って遊みましょう。

④勝った人は、宣言しましょう。

他の人は、拍手しましょう。

⑤なるべく最後まで続けましょう。

それぞれに思いがありますが、

そのお話につきましては、またの機会とさせていただきます。

もしも、子どもたちがこの遊びを楽しむ体験を通して、自信やより確かなコミュニケーション力を身に付け、そして、子ども同士のより深い相互理解につながればどんなにいいでしょう。そのためは、まずはこの遊びの楽しさを子どもたちへ伝えることだと思っています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。

子ども一人一人が勝ったり、負けたりの体験がなるべくできるよう4つの要素のゲームをバランス良く遊ぶようにしています。



《指先系》  
ゲーム・ワニに乗る?



《スピード系》  
妖精さがしゲーム



《記憶系》  
子やぎのかくれんぼ

《偶然系》

フィッシングファン



### 子どもとの時間

向山保育園 倉光智奈津

いや〜。今年の夏も暑かったですね。天気予報を見て、「今日も35度」。毎日のように出来るプールに子ども達は大喜びです。おかげで、泳げるようになった子どもも多く、成長を感じます。

さて、私はいえ、若い頃はあれほど夏が好きだったのに、今は裸になっても暑い夏より、着れば暖かい冬の方が好きになっていきます。

### 保育者の広場

しかし、わが子が野球を始めからは、暑い日さしの中、練習に、応援に出かける日。暑さも忘れるくらい、私の方が熱くなっているのです。休みの時くらい自分の時間にしたら、といわれる方もありますが、私にとっ

ては、わが子の頑張る姿を見ること、なりふりかまわず、大声で応援する時間が何よりも自分の時間になっているのです。子どもとかなかなかゆっくり話す時間がなく、ましてや、男の子だからか、過去の出来事(?)はほとんど話さず

野球を通して、親子の会話も、

お問合せは

木のおもちゃ専門店「木や」  
米子市米原ホープタウン2階  
電話 0859(38)7339



夫婦の会話も(?!)、家族で過ごす時間も、充実したように思いますが、最終一回で逆転という時にうちの子がバッターやピッチャーの時、手が震えるほどのドキドキ。保護者もチーム一丸となり、一喜一憂し、また仕事では味わえない楽しさを感じています。こんな時間は今しかありませんよ。大変だなんて思えません。嬉しいくらいです。

1年のうち、「今日はスケジュールなし」の日が1日もないくらい365日ですが、とても充実しているように感じます。保育士の皆さんは、日々、わが子のことを忘れるくらい、園の子ども達に一生懸命だと思えます。案外、わが子の子育ての方がうまくいかなかったり、悩みが大きかったりするの。私も親になって、仕事と子育ての両立が本当に難しいなあと思うのですが、たくさんの方に支えてもらっているなあと感じています。ほとんどは、それなりに成長してきている息子達に感謝しています。

ママ保育士さん、パパ保育士さんも子育て奮闘を楽しみましょう。土日が楽しみですよ。本当にたわいもない私のつぶやきを読んでもくださり、ありがとうございました。

### <絵本の紹介>

#### 「おやおや、おやさい」

文 石津ちひろ  
 絵 山村 浩二 (福音館書店)  
 ISBN : 978-4-8340-2555-2 定価 800円(税別)



今日は野菜たちのマラソン大会。トマトにカボチャにセロリにパセリ。そらまめ ニンニク えのきにはくさい。ドタバタマラソン誰が一等賞!?  
 言葉あそびを織り交ぜながら、元気でかわいい野菜たちがマラソンをします。リズムカルな言葉の数々に、野菜嫌いな子どもも好きになること間違いなし!!  
 他にも『くだもの だもの』『おかしな おかし』

など、ゆかいな果物やお菓子たちの絵本もあります。  
 小さな子どもから大人まで、読んでニッコリとできる食育!絵本です。

#### 「ばななせんせい」

ぶん 得田 之  
 え やましたこうへい (童心社)  
 ISBN : 978-4-494-01541-2 定価 1,100円(税別)



「わたしたちもあそばせて〜」「だめだめ!」  
 「わたしたちも のせて」「だめだめ!」  
 そのとき ばななせんせいが・・・  
 ばななすべりだい ばななシーソーたのしいな〜  
 みんなで一緒にあそぶとたのしいね!

保育園での身近なテーマの絵本で子どもたちが興味をもって楽しめる絵本です。

ばななせんせい大活躍!みんなをつないでくれ、明日もまた友だちと一緒に遊びたいな!と思わせてくれる絵本です。

#### 「くらい くらい」

文 長谷川摂子  
 絵 柳生弦一郎 (福音館書店)  
 ISBN : 4-8340-2236-6 定価 800円(税別)



『まっくら くら くら くらーい くらい  
 でんきをつけてちょうだい』  
 まっくらだったのがカチッとスイッチを押すとパッと明るくなる絵本。

ブルーに黒影の暗いページから  
 白にカラフルな動物のページにかわる

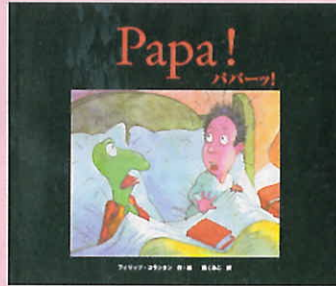
瞬間の子どもたちの表情は、にこにこ笑顔。

真っ暗な中に浮かぶシルエットを見て  
 “だれ?”とあてっこするのも楽しみのひとつ。

『まっくら くら くら くらーい くらい』  
 子どもたちと一緒に言葉のリズムをぜひ、楽しんでくださいね。

### 「Papa! パパーッ!」

作 フィリップ・コランタン  
 訳 黛 くみこ (ポプラ社)  
 ISBN:978-4-591-07384-1 定価 1,260円(税込)



ある晩、ベッドで目が覚めると、とりに怪物が!  
 「パパーッ!」  
 叫び声を聞いて助けに来たのは?  
 意外な展開に「あれっ」キャラクターの面白さに「クスリ。」ラストシーンで「ほっこり。」

でも改めて読み返すと結構いろいろ考えさせるそんなお話です。  
 他者を尊重する心を育てる おやすみ絵本です。

### <職員図書紹介>

#### 「休む技術」

かしこくコスパを上げる大人のオン・オフ術

著 西多 昌規 (大和書房)  
 ISBN:978-4-479-78260-5 定価 1,300円(税別)



この本は、「休み」が仕事にとっても人生にとってもいかに重要かを精神科医・医学博士でもある著者が紹介。いくつものポイントで分かりやすく書いてあって妙に納得できます!!体の力が抜けて楽になれること間違いなし!!いつもの週末の過ごし方や、ウィークデイの上手な「休み方」や仕事上の上手な「息抜き」のしかた、そして毎日の「睡眠」の質を上げてしっかりと脳と体を休ませる技術とコツを本書からみつけてみませんか?

#### 「てん」

作・絵 ピーター・レイノルズ  
 訳 谷川俊太郎 (あすなろ書房)  
 ISBN : 978-4-7515-2263-9 定価 1,365円(税込)



子どもを受け入れるとは・・・?  
 表現することが苦手な少女が、描かされることに反抗するかのように紙にマーカーを押し付け描いたただの点。

その子の絵に「上手ね?」と言うことがその子を受け入れることになるのだろうか?

今の保育現場では子どもは子どもらしく有ることを求められる。表現することを奨励されつつも先生が何を求めているのか、「正解さがし」をすることが表現することだと無意識に押し付けられる。そうじゃない。あなたは、あなたの今そのままを表現していいのです。それは額に入れて飾られるべき大切なものなのです。

絵本の中で先生は何も言わずその絵を額に入れて飾る。「上手ね」といううわべの評価は必要ない。今この時、ありのままの自分を受け入れられたワシはその後どんどん自分の「てん」を追求し、表現していく。

子どもに関わるすべての人に読んでもらいたい絵本「てん」。  
 同著者による「っぼい」もオススメ。

我が娘(6歳)が、ノットに「うちのばあちゃんのエビキ音」の数々をメモっていた。恐るべき子どもの探求心に完敗、いや乾杯!(N・T)

娘が幼い頃、幼稚園の遠足で拾ってきたどんぐり。宝物として大事に入れて忘れられた結果：冬になって部屋に何故か現れるイモムシ!!まさかと思っ袋を開けた時の恐怖は忘れられせん。秋になると思い出す我が家の笑い話です。(C・N)

日々、時間におわれ気もちにゆとりがなくなってしまう自分がいます。時間の使い方をちょっと工夫することとで、作っていきけるのかなと思いきや。できた時間で秋の夜空を眺めるくらい気持ちにゆとりをもって、元氣いっぱい遊び心いっぱい!リフレッシュ(余暇を楽しみ)し、過ごしていききたいなと思えます。(H・Y)

今年の夏の思い出は、あまりの猛暑に海・山にでかけることもなく、家でまったりクイラーで涼み、娘とペアのチャリティーTシャツ(黄色)を着て24時間TVを見て：いっばいっばいっばい涙しました。いっばいのちの大切さ・家族の愛を感じたひと時でした。日々の疲労と闘い一日一日を大切にそして楽しく送っていきたくです!(M・N)

セミの鳴き声が少し静かになり、吹く風が秋を感じさせる気配になりました。連日30度越えの真夏日を、夏バテもなく、熱中症も無事乗り切りました。健康オタクよろしく、身体にいいこといろいろ試し中：「笑顔と元気!!」をモットーに。(T・H)

今年は何度も「今までに経験したことのないような大雨」が降った。じゃあ、次は「今まで経験した大雨よりも大雨」とかになっちゃうのかと心配していたら、「特別警報」が出来た。特別が特別な事で無くならないように願います。(M・M)

